

## 2019年度 学校法人関西大学 決算の概要

現在、関西大学では「新型コロナウイルス感染症に対する事業活動等の基準」に基づき、学内で行われる諸活動の措置を判断しています。その結果、決算の概要は今号に掲載することとなりました。ご理解賜りますようお願い申し上げます。

### 1 はじめに

2019年度末から世界中を襲った新型コロナウイルス感染症の拡大により、本法人においても各設置学校における行事や授業を中止・変更せざるを得ない状況となり、学生の安全と修学機会を確保する観点から、最善の策を模索しながら取り組んでいるところです。

本学では、「経済的な理由により不本意に修学を断念する者を一人も出さない。」という考えのもと、種々の修学支援策を講じてまいりました。8月6日には、「関大生未来支援プロジェクト」の始動をウェブサイトにて広く周知し、夢や目標達成に向けて意欲をもって取り組む学生を支援する「ゆめサポ―夢実現支援金―」をはじめ、「緊急奨学支援金―新型コロナ急変奨学金―」、「外国人留学生の学びのための野田奨励金」の新たな支援金の募集を実施することとなりました。

終息の見えない新型コロナウイルス感染症に対して、引き続き、学内における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減したうえで持続的に教育研究活動を行い、教育研究環境の質向上と財政基盤の両立を図るべく取り組んでまいります。

### 2 事業の概要

2019年度に実施した事業のうち主なものは、次のとおりです。

#### (1) 教育研究活動

##### ア SDGsの推進

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で掲げられた世界目標「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成に向けて、学長のもとに「SDGs推進プロジェクト」を設置し、分野横断的で多彩な活動を推進しています。

2019年度は、SDGsの理念・内容を精査し、「SDGsに関する関西大学の行動指針」を策定して公表しました。また、SDGs推進プロジェクトの具体的な活動として、SDGsに関する意識調査アンケート、関西大学SDGsフォーラム、各部署のエコマネージャーを対象としたSDGs研修会、大阪府大・大阪市大・本学の連携によるSDGsシンポジウムなどを実施するとともに、教職員と学生がともに学ぶSD研修プログラム、本学図書館によるさまざまな取り組みにも協力しました。

なお、これらの取り組みについては、リニューアルしたウェブサイト【[www.kansai-u.ac.jp/sdgs/](http://www.kansai-u.ac.jp/sdgs/)】にて広く情報発信しています。

##### イ BYOD(Bring Your Own Device)の推奨に伴う学習環境整備

2019年度入学生から、自律的に学ぶ力を育成するために、学生がノートパソコン等を持参して学ぶBYODを推奨しています。レポート

やプレゼンテーション資料の作成、学習支援システム(LMS)の活用、e-Learningを用いた自学自習等、日常的な学習活動においてノートパソコン等の活用を促進しました。無線LAN、Microsoft Office、ウイルス対策ソフト、Webメール、Dropbox等を利用できる学習環境の整備を行うとともに、『パソコン相談コーナー』を全キャンパスに設け、ソフトウェアのインストール、各種設定等の質問に答え、学生の主体的な学びを支援しました。

##### ウ 文部科学省「大学の世界展開力強化事業(COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援)」の展開

5年計画の2年目にあたる2019年度は、グローバル教育イノベーション推進機構(IIGE)において、COILの授業を受けた学生の教育効果を検証するアセスメントルームの設置、COILを実践する教員をマッチングするサイトImmerseUの構築といった基盤整備を行いました。ImmerseUの利用方法や教育効果を測るサイトBEVIとCOILを融合した教育手法など、COILに関するさまざまな技法・知識を修得できるトレーニングプログラム、セミナー、ワークショップ等を国内外で実施しました。

COIL型教育を活用したプログラムとしては、8月に日本・韓国・ロシアを周遊する大型客船に世界中の学生が一堂に会するUMAP-COIL Joint Honors Programを実施しました。また、COIL Plus Programを開発し、国際部主催の派遣プログラムを2月に実施したほか、学部・研究科においてもCOIL型教育を活用した派遣・受入プログラムが行われました。



【UMAP-COIL Joint Honors Program】

##### エ 集中英語講座[KU Intensive Communication Camp(KUICC)]の導入

2019年度から新たなプログラムとして改編された「KUICC」を、夏期及び春期に実施しました。英語でのコミュニケーションに苦手意識のある初心者向けのGeneralコースと、海外留学や海外での就職を意識した上級者向けのAdvancedコースの2コースがあり、いずれも本学の特任外国語講師が担当し、全講義を英語で行いました。国内で手軽に“留学体験”できるプログラムとして学生の需要も高く、いずれの日程も定員を超える申し込みがありました。

### オ 外国語学部創設10周年記念事業の実施

外国語学部は2019年4月に創設10周年を迎え、10月11日にニューサウスウェールズ大学のアンディ・ガオ氏を招へいし、「Open new doors in life through learning languages」と題した記念講演会を行いました。また、台風19号による荒天のため中止となった記念式典及び講演会の代替行事として、12月20日に式典当日に講演いただく予定であった、つくば言語技術教育研究所長の三森ゆりか氏を招へいし、「外国語の基礎として必要な日本語スキル」と題した講演会を行い、外部からも多数の聴講者がありました。



【記念講演会】

### カ 総合情報学部創設25周年記念事業の実施

総合情報学部は2019年4月に創設25周年を迎え、『関西大学総合情報学部 創設25周年記念誌』を発行しました。記念事業としては、記念シンポジウム等を開催するとともに、4月28日には、大学関係者、学外関係者並びに総合情報学部同窓生を招いてプロジェクトマッピングなど総合情報学部らしい映像を用いた記念式典を挙行し、未来へ向けてさらなる発展を願いました。式典後は大同窓会が開催され、各種イベントも開催され、盛会裏に終了しました。



【記念誌の表紙】

### キ 文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の推進

2016年度選定の「KU-SMART PROJECT「人に届く」関大メディカルポリマー(KUMP)による未来医療の創出」は、研究面では、実施計画に基づき順調に進捗しており、研究成果である医療器材・医療システムの実用化を目指した活動も行っています。

広報面では、医学部のない本学で医療に関わる研究を行っている点を受験生向けに広く周知を行い、2019年度はKUMP型AO入試の合格者が化学生命工学部に入學しました。また、日本バイオマテリアル学会のランチョンセミナーにおいて、研究代表者の大矢裕一教

授が本事業を紹介し、学外の研究者に対し、認知度の向上を目指した広報を行いました。



【日本バイオマテリアル学会ランチョンセミナー】

2017年度選定の「オープン・プラットフォームが開く関大の東アジア文化研究(KU-ORCAS)」は、研究のリソース・グループ・ノウハウ・成果、これら4つのオープン化を目指して活動を展開しています。2019年度は、東アジア文化研究オープン・プラットフォームシステムを稼働させ、国際規格IIIF(トリプルアイエフ)に準拠したデジタルアーカイブの充実を図り、国際シンポジウムも開催しました。また初の試みとして、バチカン図書館収蔵の日本関連史料のデジタル化に向けて、クラウドファンディングを活用することとしました。

広報面では、「世界的な東アジア文化研究を牽引する関西大学」を本学のブランドとして確立するため、オープンキャンパス等において、本プロジェクトの活動の一端を紹介するなど、学生や一般市民に向けて、認知度の向上を図りました。



【バチカン図書館閲覧室】

### ク 就職状況・キャリア形成支援について

2020年4月新卒採用は、日本経済団体連合会が「採用選考に関する指針」を示す最終年となり、企業側の採用競争が激化する中で新卒採用ニーズは依然高い水準を維持しました。また、学生はインターンシップを中心に業界や仕事研究を積んで選考フェーズに進むケースが定着しました。そのような環境の中、さまざまな支援プログラムを実施し、2019年度卒業生の就職率は前年度比0.4%増の98.9%となりました。

3年次生に対しては、より広い視野を持って「仕事」と向き合い、社会で活躍できるようインターンシップガイダンス及び同セミナー等を開催し、さらに採用担当者と学生との出会いの場としての業界研究セミナー及び合同企業研究セミナーを実施しました。無料の「就職模擬試験」の実施や、エントリーシート対策、模擬面接対策など、就職支援対策においてもさらなる充実を図りました。1・2年次生に対してもキャリア形成支援を充実させ、関大枠インターンシップへの参加を推奨したほか、新たにキャリアデザイン夏合宿を実施しました。

エクステンション・リードセンターでは、英語、公務員、司法、会計職、SPI試験対策、そのほか資格講座など合計13講座を開設し、年間延べ2,996名が受講しました。公務員講座受講生が本学公務員就職者数の約6割を占めたほか、難関国家試験のひとつである公認会計士試験では受講生から13名の合格者を輩出しました。各資格講座についても全国平均を大きく上回る合格率を維持し、学生ニーズに対応しつつ実成果を上げています。

## (2) 教育研究環境の整備充実関係

「特別高圧」と「高圧」の2系統ある千里山キャンパスの受電系統について、停電リスクの低い地中線路による「特別高圧」受電に統一する自営線を構築するとともに、吹田変電所に加え、味生変電所（摂津市）から特別高圧受電線の予備電源供給設備を敷設し、送電変電所の複数化を図ります。2019年度は、既存の特別高圧受電エリアから一高・一中エリア及び第3学舎エリアへの配管埋設等の工事を実施しました。

また、老朽化の進んでいる千里山キャンパスの光通信ネットワークについて、最大100Gbpsに対応できる、柔軟で拡張性・強靱性のある光通信ネットワークを再構築するため、2019年度は各所にスター型基幹ネットワークを敷設しました。

## 3 収支計算書

学校法人は、文部科学省令の「学校法人会計基準」に基づき、財務計算に関する下記の計算書等を作成することになっています。

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入・支出の内容を明らかにし、かつ、支払資金の収入・支出のてん末を明らかにするものです。資金の動きのすべてが計算の対象となります。

「事業活動収支計算書」は、学校法人の諸活動に伴う収支を経常的な収支と臨時的な収支に区分し、それぞれの収支の均衡状況とその内容を明らかにすることによって、学校法人の経営状況が健全に維持されているかどうかを示すものです。

「貸借対照表」は、学校法人の一定時点（決算日）における資産、負債、純資産の財政状態を示すものです。

「財産目録」は、「貸借対照表」を基準にして組み替えて作成したものです。

「監査報告書」には、私立学校法第37条第3項第3号に基づく監事による「監事監査報告書」および私立学校振興助成法第14条第3項に基づく監査法人による「独立監査人の監査報告書」があります。

ここでは紙幅の関係上、計算書類の総括表のみ掲載しておりますが、「関西大学ウェブサイト」に財産目録などの詳細な財務情報を掲載いたしておりますので、ご覧ください。

【[www.kansai-u.ac.jp/zaimu/](http://www.kansai-u.ac.jp/zaimu/)】

## 4 収支決算の概要

### (1) 資金収支決算

2019年度資金収支決算は、6ページに掲載の「資金収支計算書（総括）」のとおりです。

資金収入は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、補助金収入などの法人に帰属する収入のほか、前受金収入なども含め、521億8,233万6,209円となりました。

資金支出は、教職員の人件費、教育研究活動および法人の運営に必要な諸経費、施設設備費のほか、借入金返済などの支出を含め、514億6,141万3,645円となりました。この結果、収支差引き7億2,092万2,564円の収入超過となり、これに前年度繰越支払資金141億3,876万8,749円をあわせた結果、翌年度繰越支払資金は、148億5,969万1,313円となりました。

### (2) 事業活動収支決算

2019年度事業活動収支決算は、6ページに掲載の「事業活動収支計算書（総括）」のとおりです。

経常的な収支のうち、教育及び研究活動の収支状況を表す教育活動収支では、学生生徒等納付金、手数料、経常費等補助金などの教育活動収入から、教職員の人件費や教育研究経費などの教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額が15億3,484万1,146円の収入超過となり、予算に対し2億965万4,146円の増となりました。また、主に財務活動の収支状況を表す教育活動外収支差額は5億9,691万3,373円の収入超過となりました。この結果、経常収支差額は21億3,175万4,519円の収入超過となり、予算に対し3億6,697万9,519円の増となりました。これに施設設備にかかる補助金、資産の売却や処分等の臨時的な収支を表す特別収支差額2億3,972万4,104円の収入超過を加えた基本金組入前当年度収支差額は23億7,147万8,623円の収入超過となり、予算に対し9億7,603万7,623円増加しました。

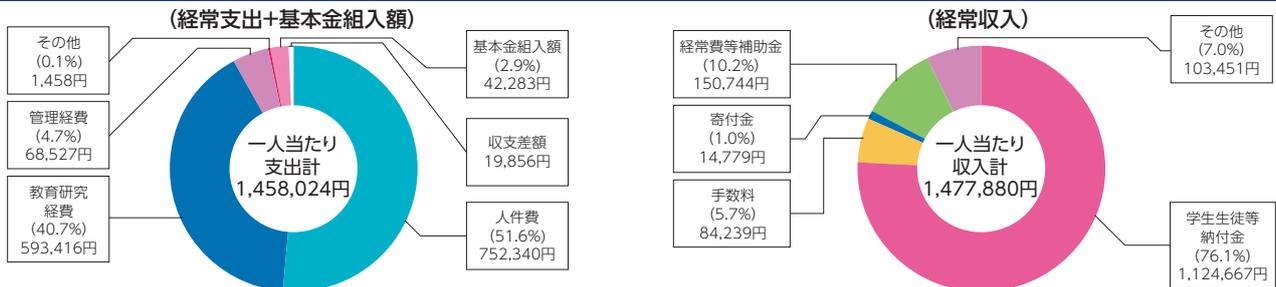
一方、基本金組入額は、施設設備あるいは将来の施設取得に係る積立金や基金などに充当するもので、14億4,898万7,562円となり、予算に対し4億69万8,438円の減となっています。

2019年度決算における事業活動収支の均衡状況を表す当年度収支差額は、基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を差し引いた9億2,249万1,061円の収入超過となり、予算に対し13億7,673万6,061円改善しました。この結果、当年度収支差額と前年度繰越収支差額の合計から、翌年度繰越収支差額は237億9,719万6,287円の支出超過となりました。

### (3) 貸借対照表

2019年度末（2020年3月31日）現在の資産、負債、純資産の財政状態を示しています。

## 2019年度 事業活動収支決算における「学生生徒等一人当たりの経常的な支出とこれを賄う収入」



(注) 1 事業活動収支決算における経常的な支出(教育活動支出、教育活動外支出、基本金組入額)及び収入(教育活動収入、教育活動外収入)の決算額を、科目ごとにそれぞれ学生数34,386人(大学院・学部・留学生別科・高校・中学校・小学校・幼稚園の学費納入者合計)で除して、学生生徒等一人当たりの平均値を示したものである。  
2 「基本金組入額」とは、校地、校舎、機器備品、図書などの取得、あるいは、そのための借入金の返済、又は将来取得のための積立金などの主として資本的支出に充てる額である。

## 資金収支計算書(総括) 2019年4月1日から2020年3月31日まで

支出の部				収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
1 人件費支出	26,029,975,000	25,974,741,233	55,233,767	1 学生生徒等納付金収入	38,511,503,000	38,695,363,441	△ 183,860,441
2 教育研究経費支出	14,328,725,000	14,627,428,803	△ 298,703,803	2 手数料収入	2,728,437,000	2,901,910,800	△ 173,473,800
3 管理経費支出	1,847,824,000	2,151,714,883	△ 303,890,883	3 寄付金収入	470,000,000	496,440,979	△ 26,440,979
4 借入金等利息支出	23,650,000	23,439,035	210,965	4 補助金収入	5,218,054,000	5,352,356,126	△ 134,302,126
5 借入金等返済支出	1,297,190,000	1,297,190,000	0	5 資産売却収入	42,550,000	72,086,176	△ 29,536,176
6 施設関係支出	1,177,634,000	767,441,681	410,192,319	6 付随事業・収益事業収入	1,078,727,000	1,263,490,936	△ 184,763,936
7 設備関係支出	1,635,637,000	1,618,986,075	16,650,925	7 受取利息・配当金収入	463,238,000	620,352,408	△ 157,114,408
8 資産運用支出	2,685,442,000	4,021,171,414	△ 1,335,729,414	8 雑収入	1,392,848,000	1,647,674,936	△ 254,826,936
9 その他の支出	2,777,261,000	2,922,427,230	△ 145,166,230	9 借入金等収入	0	0	0
10 予備費	500,000,000	-	500,000,000	10 前受金収入	6,549,577,000	6,954,711,143	△ 405,134,143
11 資金支出調整勘定(小計)	△ 1,616,806,000	△ 1,943,126,709	326,320,709	11 その他の収入	2,179,020,000	2,062,166,956	116,853,044
12 翌年度繰越支払資金	14,444,891,000	14,859,691,313	△ 414,800,313	12 資金収入調整勘定(小計)	△ 7,641,300,000	△ 7,884,217,692	242,917,692
				13 前年度繰越支払資金	(50,992,654,000)	52,182,336,209	△ 1,189,682,209
					14,138,769,000	14,138,768,749	251
支出の部合計	65,131,423,000	66,321,104,958	△ 1,189,681,958	収入の部合計	65,131,423,000	66,321,104,958	△ 1,189,681,958

(注) 予算の流用を含む。

## 事業活動収支計算書(総括) 2019年4月1日から2020年3月31日まで

事業活動収入の部				特別収入			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
1 学生生徒等納付金	38,511,503,000	38,695,363,441	△ 183,860,441	1 資産売却差額	42,337,000	71,873,376	△ 29,536,376
2 手数料	2,728,437,000	2,901,910,800	△ 173,473,800	2 その他の特別収入	117,600,000	279,668,877	△ 162,068,877
3 寄付金	477,000,000	483,388,988	△ 6,388,988	特別収入計	159,937,000	351,542,253	△ 191,605,253
4 経常費等補助金	5,203,454,000	5,207,698,126	△ 4,244,126				
5 付随事業収入	1,078,727,000	1,263,490,936	△ 184,763,936	1 資産処分差額	22,040,000	99,349,193	△ 77,309,193
6 雑収入	1,392,848,000	1,646,184,139	△ 253,336,139	2 その他の特別支出	7,231,000	12,468,956	△ 5,237,956
教育活動収入計	49,391,969,000	50,198,036,430	△ 806,067,430	特別支出計	29,271,000	111,818,149	△ 82,547,149
				特別収支差額	130,666,000	239,724,104	△ 109,058,104
				予備費	500,000,000	-	500,000,000
				基本金組入前当年度収支差額	1,395,441,000	2,371,478,623	△ 976,037,623
				基本金組入額合計	△ 1,849,686,000	△ 1,448,987,562	△ 400,698,438
				当年度収支差額	△ 454,245,000	922,491,061	△ 1,376,736,061
				前年度繰越収支差額	△ 24,719,687,000	△ 24,719,687,348	348
				翌年度繰越収支差額	△ 25,173,932,000	△ 23,797,196,287	△ 1,376,735,713

事業活動支出の部				教育活動外収入			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
1 人件費	25,888,323,000	25,876,130,295	12,192,705	1 受取利息・配当金	463,238,000	620,352,408	△ 157,114,408
2 教育研究経費	20,124,838,000	20,412,731,686	△ 287,893,686	2 その他の教育活動外収入	0	0	0
3 管理経費	2,053,621,000	2,367,004,703	△ 313,383,703	教育活動外収入計	463,238,000	620,352,408	△ 157,114,408
4 徴収不能額等	0	7,328,600	△ 7,328,600				
教育活動支出計	48,066,782,000	48,663,195,284	△ 596,413,284				
教育活動収支差額	1,325,187,000	1,534,841,146	△ 209,654,146				

事業活動外支出の部			
科目	予算	決算	差異
1 借入金等利息	23,650,000	23,439,035	210,965
2 その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	23,650,000	23,439,035	210,965
教育活動外収支差額	439,588,000	596,913,373	△ 157,325,373
経常収支差額	1,764,775,000	2,131,754,519	△ 366,979,519

(注) 予算の流用を含む。

## 貸借対照表 2020年3月31日

資産の部				純資産の部			
科目	2019年度末	2018年度末	増減	科目	2019年度末	2018年度末	増減
固定資産	210,253,496,944	210,597,081,209	△ 343,584,265	基本金	223,726,693,123	222,277,705,561	1,448,987,562
有形固定資産	111,333,869,115	114,873,681,895	△ 3,539,812,780	第1号基本金	200,277,964,850	198,864,414,218	1,413,550,632
特定資産	96,742,961,873	93,136,446,785	3,606,515,088	第3号基本金	20,035,728,273	20,000,291,343	35,436,930
その他の固定資産	2,176,665,956	2,586,952,529	△ 410,286,573	第4号基本金	3,413,000,000	3,413,000,000	0
流動資産	16,819,393,031	15,741,814,943	1,077,578,088	繰越収支差額	△ 23,797,196,287	△ 24,719,687,348	922,491,061
				翌年度繰越収支差額	△ 23,797,196,287	△ 24,719,687,348	922,491,061
資産の部 合計	227,072,889,975	226,338,896,152	733,993,823	純資産の部 合計	199,929,496,836	197,558,018,213	2,371,478,623
負債の部				負債及び純資産の部 合計	227,072,889,975	226,338,896,152	733,993,823
固定負債	16,353,476,144	17,947,692,834	△ 1,594,216,690				
流動負債	10,789,916,995	10,833,185,105	△ 43,268,110				
負債の部 合計	27,143,393,139	28,780,877,939	△ 1,637,484,800				